

平成 28 年度畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 28 年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成 28 年 11 月 30 日(水)～12 月 1 日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者 43 名、委託関係者 56 名ほか、計 134 名の参集を得て、除草剤 32 薬剤 (195 点)、

生育調節剤 2 薬剤 (5 点) について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成 28 年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験判定結果

除草剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a) <水量100L>	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.AC-263 液 イマザモックスアンモニウム塩:0.85% [*ツムラ、BASFジャパン]	おうぎ	実・継	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	おうぎ出芽前期、雑草発生始期～揃期	200～300mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		・薬量200mL/10a処理での効果、葉害の確認(畦間処理)
				茎葉兼土壌(畦間)	おうぎ生育期、雑草発生揃期～2葉期	300mL <水量100L>				
1.AC-263 液 イマザモックスアンモニウム塩:0.85% [*武田薬品工業、BASFジャパン]	甘草	実・継	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	甘草萌芽前、雑草発生前～始期	300mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域	・作物に飛散しないように散布する	・甘草萌芽前、雑草発生前～始期での年次変動の確認 ・甘草萌芽揃期、雑草発生始期～揃期での効果、葉害の確認 ・甘草生育期、雑草発生揃期～2葉期、1回処理での効果の確認(畦間処理)
				茎葉兼土壌→茎葉兼土壌(畦間)	甘草萌芽前、雑草発生前～始期→甘草生育期、雑草2葉期まで					
2.AH-01 液 グルホシネートPナトリウム塩:11.5% [Meiji Seika ファルマ、北興化学工業]	春播小麦	実・継	一年生雑草	茎葉	小麦生育期、雑草生育期(草丈20cm以下)(圃場内周縁)	300～500mL <水量100L>	全土壌	北海道	・周辺作物に飛散しないように注意する	・雑草草丈30cm以下での効果、葉害の確認
3.AL-513乳 アラクロール:30% リニユロン:12% [日産化学工業]	大豆	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400～600mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		・アサガオに対する除草効果の確認
			ツユクサ			600～800mL <水量100L>				
4.AL-513(改)細粒 アラクロール:4% リニユロン:1.04% [日産化学工業]	ばれいしょ	継								・効果、葉害の確認
5.BJL-861微粒 ダゾメット:96.5% [アグロカネショウ]	こんにゃく	継								・効果、葉害の確認
6.CG-123 αフロアブル アトラジン:27.8% S-メトラクロール:26.4% [シンジェンタ]	どうもろこし(飼料用および食用)	実・継	一年生雑草	土壌	播種後、雑草発生前	140～200mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・イネ科雑草の多発圃場ではイネ科雑草の2葉期までに使用する。	・水量150L/10aでの年次変動の確認(播種後出芽前、東北以南)
						140～260mL <水量100～150L>		東北以南		
				茎葉	どうもろこし2～4葉期	140～200mL <水量100L>		北海道		
						140～260mL <水量100L>		東北以南		

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(ノ10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
7.DCMU 水和 DCMU:80% [*保土谷UPL、 北興化学工業]	食用亜麻	実・継 (従来どお り)	一年生広 葉雑草	茎葉兼 土壌	亜麻生育期(5 ~10cm)、雑 草発生揃期	60g <水量100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・生育の進んだ雑草には 効果が劣る	・一年生イネ科雑草に対 する効果の確認
8.HCW-201フロアブル DCMU:50% [*保土谷UPL、 北興化学工業]	大豆	実・継 (従来どお り)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、雑草発生 前	150~200mL <水量100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・タデ類には効果が劣る	・畦間・株間処理での一 年生イネ科雑草に対す る効果の確認 (北海道) ・アサガオに対する効果 の確認 (畦間・株間)
					播種後出芽 前、雑草発生 始期	100~200mL <水量100L>				
			茎葉兼 土壌 (畦間・ 株間)	大豆生育期 (本葉5葉期以 降)、雑草生育 期(草丈15cm 以下)	100~200mL <水量100L>	全域	・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低く し、本葉にかからないよう に散布する ・葉齢の進んだイネ科雑 草には効果が劣る場合 がある ・イネ科雑草が2葉期より 生育している場合には、 展着剤を加用する(東北 以南) ・低薬量では、生育の進 んだタデ科雑草に効果 が劣る			
9.HMB-0901フロアブル フェンメディファム:9.0% メタミロン:27.0% [ホクサン]	てんさい (移植)	実・継	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい定植 活着後、雑草 発生揃期	500~700mL <水量50~100L>	全土壌	全域	・展着剤を加用する ・タニソバには効果が劣 る場合がある	・水量50L処理での年次 変動の確認 ・水量100L処理での年 次変動の確認
	てんさい (直播)	実・継	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい第2本 葉展開後、雑 草発生揃期	400~600mL <水量50~100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・一過性の葉の黄化が 見られることがある。 ・展着剤を加用する	・水量100L処理での年 次変動の確認
10.HSW-9104S乳 デスメディファム:2.3% フェンメディファム:10% S-メトラクロール:7.5% [ホクサン]	てんさい (移植)	実	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	てんさい定植 活着後、雑草 発生揃期	500mL <水量50~100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・タデ科に効果が劣る場 合がある	
	てんさい	実	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	中耕後(てんさい 7葉期以 降)、雑草発生 揃期	500mL <水量50~100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・スズメノカタビラには効 果が劣る場合がある	
11.KUH-043顆粒水和 ピロキサスルホン:50% [クミアイ化学工業]	ばれいしよ	—								<作用性>
12.MBH-075乳 プロスルホカルブ:46% リニユロン:11.5% [丸和バイオケミカル]	ばれいしよ	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	植付後萌芽 前、雑草発生 前	400~600mL <水量100L>	全土壌 (砂土を 除く)	全域		
				茎葉兼 土壌	植付後萌芽 前、雑草発生 始期	300~600mL <水量100L>				
13.MBH-135 乳 フルチアセットメチル:2% [丸和バイオケミカル]	大豆	実・継 (従来どお り)	一年生広 葉雑草	茎葉	大豆2~4葉 期、雑草生育 期(草丈10cm 以下)	30~50mL<100L>	全土壌 (砂土を 除く)	東北以南	・シロザ、ヒユ科、ナス科 の優占圃場で使用する ・キク科、カンツリグサ科 には効果劣る ・処理時に展開していた 葉に褐斑を生じ、生育が 遅れる場合がある	・有効草種についての確 認 ・大豆1~3葉期処理で の効果、葉害の確認(北 海道) ・大豆5葉期~開花前 での効果、葉害の確認(東 北以南)
14. NC-360フロアブル キザロホップエチル:7% [日産化学工業]	ばれいしよ	実・継	一年生イ ネ科雑草	茎葉	ばれいしよ生 育期、イネ科 雑草3~8葉期	200~300mL <水量100L>	全土壌	北海道	・体系処理;広葉雑草対 象の土壌処理剤を使用 する ・スズメノカタビラには効 果劣る。	・東北以南での効果、葉 害の確認
	かんしよ	実	一年生イ ネ科雑草	茎葉	かんしよ生育 期、イネ科雑 草3~10葉期 (草丈30cm以 下)	200~300mL <水量100L>	全土壌	全域	・体系処理;広葉雑草対 象の既登録土壌処理剤 を使用する。 ・スズメノカタビラには効 果劣る。	

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
15.NC-622液 グリホサートカリウム 塩:48% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200~500mL <水量25~100L>	全土壌	東北以南	・散布水量5~6L、25~50L/10aの場合は専用ノズルを使用する	・薬量200mL/10a、水量5~6L/10a処理での効果の確認(耕起前) ・耕起前、水量25~100L/10a処理での効果、葉害の確認(北海道) ・播種後出芽前、水量5~6L/10a処理での効果、葉害の確認(東北以南) ・収穫前全面処理での効果、葉害の確認(北海道)
					500mL <水量5~6L>					
			播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)	200~500mL <水量25~100L>						
			茎葉(畦間)	生育期、雑草生育期						
			茎葉	大豆 落葉期~成熟期、雑草生育期	500~1000mL <水量50~100L>			・作物に飛散しないように散布する ・散布水量25~50L/10aの場合は専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で散布する ・成熟の遅れた株に散布すると、子実の変色やしわ粒等が発生する場合があります ・水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉は枯れても果実が残る場合があります ・効果の完成までに2週間以上を要する		
16.NH-009液 グルホシネート:18.5% [日本農薬]	大豆	継								・効果、葉害の確認
17.NK-1101 水和 S-メトラコロール:24.8% プロモトリン:26.6% [日本化薬]	どうもろこし (飼料用および食用)	実 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	225~300g <水量70~100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		
	大豆	実 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	225~300g <水量70~100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		
18.NM-536P乳 ジメテナミドP:8.5% リニユロン:12% [日産化学工業]	大豆	実 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400~600mL <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		
19.NP-55乳 セトキシジム:20% [日本曹達]	小豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	小豆生育期、イネ科雑草3~5葉期	150~200mL <水量100~150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・スズメノカタビラには効果劣る	
					小豆生育期、イネ科雑草6~8葉期(草丈30cm以下)	200mL <水量100~150L>				
	しゃくやく (薬用)	実	一年生イネ科雑草	茎葉	しゃくやく生育期、イネ科雑草3~6葉期	150~200mL <水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・スズメノカタビラには効果劣る	
	はっか	実	一年生イネ科雑草	茎葉	はっか生育期、イネ科雑草3~6葉期	150~200mL <水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・スズメノカタビラには効果劣る	
20.NP-66フロアブル 既知化合物A:1.7% 既知化合物B:12% [日本曹達]	大豆	—								<作用性>
	どうもろこし (飼料用および食用)	—								<作用性>
21.SCC-010液 グルホシネート:18.5% [日本アグロサービス]	大豆	継								・効果、葉害の確認
	ばれいしょ	継								・効果、葉害の確認

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a) <水量>	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
22.SL-122顆粒水和 フルアジホップP:7% リニユロン:30% [石原産業]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	250~300g <水量100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域	・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	・薬量200/10a、播種後出芽前処理での効果、薬害の確認
				茎葉兼土壌 (畦間・株間)	大豆生育期(本葉3葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)	200~300g <水量100L>		東北以南		
	大豆生育期(本葉5葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)		北海道							
23.SL-573 フロアブル トルピラレート:10.4% [石原バイオサイエンス]	とうもろこし (飼料用および食用)	実	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3~5葉期、雑草生育期(草丈15cm以下)	30~50mL <水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草が多い圃場では高薬量で使用する	
					とうもろこし6~7葉期、雑草生育期(30cm以下)	50~75mL <水量100~150L>				
24.SL-574 フロアブル トルピラレート:3.1% ニコスルフロン:3.1% [石原バイオサイエンス]	とうもろこし (飼料用)	実・継	一年生雑草、多年生イネ科雑草	茎葉	とうもろこし3~5葉期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100~200mL <水量100L>	全土壌	全域	・処理後白化、黄化、一時的な生育抑制が生じる場合がある。	・多年生イネ科雑草に対する年次変動の確認(北海道)
25.UPH-002 フロアブル フェンメディファム:16% [保土谷UPL]	てんさい (移植)	実	一年生広葉雑草	茎葉	育苗期本葉展開後、雑草発初期	500~750mL <水量150L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合がある	
					てんさい定植活着後、雑草発生摘期	400~600mL <水量50~100L>				
	てんさい (直播)	実・継	一年生広葉雑草	茎葉	てんさい2葉期以降、雑草発生摘期	400~600mL <水量50~100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合がある	・子葉展開期~本葉抽出期、雑草発生摘期での効果、薬害の確認
26.WOC-01液 グリホサートイノプロピル アミン塩:41.0% [三井化学アグロ]	大豆	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	耕起または播種7日以前、雑草生育期(草丈30cm以下)	250~500mL <水量25~100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25~50L)の場合は専用ノズルを使用する	・薬量と効果の確認(播種後出芽前) ・落葉終期での効果、薬害の確認
					播種後出芽前、雑草生育期(草丈30cm以下)	250~500mL <水量100L>		東北以南		
				茎葉 (畦間)	大豆生育期、雑草生育期	200~500mL <水量25~100L>		東北以南		

生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.BAW-1601乳 新規化合物19.2% [BASFジャパン]	さとうきび	-								<作用性>
2.ジベレリン 水溶 ジベレリン:3.1% [協和発酵バイオ、住友化学、Meiji Seika フアルマ]	ぼだい、いしょ	継								・効果、薬害の確認